

1,011.2	木津川	三	京都府相樂郡大河原村 北大河原(ミツタニ)	同 郡笠置村 北笠置 中通	湯水 三七五	一、二四九	一、〇〇〇	一、三〇九
					低水 六八〇	三〇	七六二	九四九
					平水 九七〇	三、二六四	八五三	二、三九九
						三、一三〇	二、七五五	丙

シ得ヘキモノハ二地點ニシテ其ノ馬力數六三六七ナリ。

今之ニ許可水力地點支流ノ地點ヲ除クヲ加算スルトキハ

本川ニ於ケル總水力地點數七其ノ馬力數一七九八一ニ達

ス

水力地點ノ説明

順位一、〇一〇 名張川ノ右岸ニ取入レ隧道延長約一、四〇〇間開渠延長約一、三〇〇間ヲ開鑿ス

順位一、〇一一 名張川月瀬橋ノ下流ニ取入口ヲ設ケ右岸ニ沿ヒ開渠延長約一、五〇〇間、隧道約一、〇〇〇間ヲ開鑿ス

順位一、〇一二 木津川ノ右岸ニ取入レ開渠約一、五〇〇間、隧道約八〇〇間ヲ築造ス(木津川電氣株式會社ニ許可)

以上三地點ニハ用水悪水ノ關係ナク流水アルモ少量ナルヲ以テ流量多キ場合ニ於テ之ヲ流下セシムルヲ可トス

順位一、〇一ニハ荷舟ノ流行アルモ之レ亦少量ナルヲ以テ其ノ出發點ヲ本地點放水口以下ニ變更セシムルモノトス

第七章 由良川水系

一、流域

地形 本流域ハ丹波北部ト丹後東部トニ跨リ東西ニ長ク長方形ヲナシ面積一三〇方里ヲ占ム。四面山嶽ヲ以テ圍繞セラレ南ハ中國山脈ニシテ稍高ク海拔七〇〇米内外ノ連嶺ニヨリテ桂川加古川ノ二流域ト界シ東ハ其ノ支脈丹波ノ西界ヲナシ其ノ主峰タル三國嶽(九五九米)ハ本川ノ水源ナリ更ニ本支脈ハ西ニ走リテ丹波若狹ノ國界ニ進ミ丹後ニ至リテ止ム、西ハ中國山脈ヨリ分岐セル連山ニシテ丹波、但馬ノ國界ヲナシ山勢一旦伏スレトモ但馬丹後ノ國界ニ於テ再ヒ隆起シテ河口ニ達ス、而シテ本川ノ流域ハ概ネ山嶽、丘陵ノ占ムル所トナレルモ山勢緩ニシテ溪間稍開ケ諸處ニ平地アリ

地質

主トシテ秩父古生層ヨリ成リ但馬丹後ノ國界ニ花崗岩ヲ露出ス

林野狀態

中流ヨリ下流部ニ於ケル山林ハ多ク自然生

ノ栗、赤松等ノ針澗混清林ニシテ特ニ見ルヘキモノナシ

地目面積表

河川名	地目		山林		合計
	耕地	原野	針葉林	混清林	
和知川 (面積(方里) 同百分率)	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇
	同百分率	同百分率	同百分率	同百分率	同百分率
和知川 (面積(方里) 同百分率)	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇	〇.〇〇
	同百分率	同百分率	同百分率	同百分率	同百分率

水力利用區域内ニ於ケル地目ノ分布ハ右表ノ如ク澗葉

樹林最多ク流域中之ヲ見サル所ナシ就中良好ナルハ本川上流部ニシテ板橋等繁茂シ其ノ他ノ分水嶺附近ニ於ケルモノ之ニ次ク然レトモ各支川ノ下流部並本川ノ沿岸ニ存在セル山林ハ概ネ栗、檜等ノ粗雜林ナリ。針葉樹林ノ面積ハ前者ニ比シ稍少クシテ松樹ヲ主トスレトモ知井村、大野村、平屋村及鶴ヶ岡村ノ溪間ニハ杉、檜等植林セラレタル處多シ草山ノ面積ハ稍多キカ如シト雖多少ノ雜木ヲ含ミ是等ハ近時植林獎勵ノ結果漸次杉、檜ノ樹林ニ改良セラレントスル傾向アリ

氣象狀態 雨量ハ下流部ニ於ケル一七〇〇耗ヲ以テ最小トシ漸次山間部ニ至ルニ從ツテ増加シ丹波東北部ニ於ケル二、一〇〇耗内外ヲ以テ最大トス

二河川狀況 本川ハ上流ヲ芦生川ト稱シ其ノ源ヲ三國嶽山脈ヨリ發シテ知井村地方ヲ西ニ向ヒ芦生ヲ過キ左支

佐々里川ヲ合セテ和知川本流ヲナス、知井村字中ニ於テ小流ヲ合セテ夫ヨリ小濱街道ニ沿ヒテ西南ニ流下シ宮島村ニ入りテ屈曲多ク大字島ニ於テ右支榎野川ト合シ西流シテ船井郡ニ入ル、榎谷ニテ左支高屋川ヲ合セテ夫ヨリ山陰鐵道ニ沿フテ西北ニ流下シ何鹿郡ニ入りテ綾部町ヨリ西ニ轉シ右支上林川ヲ合セテ後福知山ニ出テ加古川トノ分水嶺ニ發スル最大支流土師川ヲ合シ夫ヨリ由良川ト稱セラレ宮津街道ニ沿フテ北ニ折レ牧川ヲ合セテ丹後ニ入り東北ニ蛇行シテ由良海ニ注ク。此ノ流路約三五里ナリ

田歌ヨリ上流ハ谷迫リ兩岸ノ山勢甚タ急ナルモ田歌ヨリ島ニ至ル間ハ谷稍開ケ岸低ク且緩ニシテ河床ニ砂礫多シ、島ヨリ榎谷ニ至ル間ハ兩岸概ネ斷崖ヲナシ谷深ク河床岩盤多ク榎谷ヨリ綾部ニ至ル間ハ谷開ケ兩岸ノ山勢緩ニシテ河幅廣キモ岩壁高ク急峻ニシテ河床概ネ砂礫多シ本川上流部ハ森林狀態良好ニシテ河床ノ地質亦堅キヲ以テ比較的安定ノ狀態ニアルモ榎谷ヨリ下流ハ高原川其ノ他ノ支川ヨリ流下スル土砂夥シク堆積シ出水毎ニ河床變動ス而シテ洪水位ハ角附近ニテ約三五尺ニ達ス

水力利用範圍内ニ於ケル河川勾配左ノ如シ

自芦生 至中 約一〇分ノ一	自中 至島 約二三〇分ノ一	自島 至榎谷 約二二五分ノ一	自榎谷 至綾部 約三六〇分ノ一
和知川 流量表			

順位	舊順位	河川	測水所	面積	流量				流域一方里當流量			
					年次	最大	平水	低水	最小	最大	平水	低水
二五七	天	和知川	京都府船井郡下和知村角上太田	三七九	大正八年 大正九年 大正十年 大正十一年 平均	四七三〇 三六〇〇 二七六〇〇 一七〇〇〇 一〇〇〇〇	五七九 三六三 二七〇 一七〇 一〇〇	一五三 一五三 一三〇 一三〇 一〇〇	一三三 一三三 一〇七 一〇七 八〇	一三五 一三五 一〇六 一〇六 八〇	四〇 四〇 三六 三六 三三	三三 三三 三三 三三 三三

本川渴水ハ概ネ夏季ニシテ五、六月ヨリ八、九月頃ニ至ル間ニ於テ水量最渴澗冬季ハ稍平水ヲ持ツ春季ニ高水多ク秋季ハ概ネ低水ナリ而シテ最大洪水ノ起ルハ例年八、九月ノ頃ナリトス

三、水利及治水 上流ヨリ宮島村ニ至ル間ハ耕地稍多ク

本川ノ水ヲ引用スル灌溉用水ノ取入口一箇所アリ此ノ灌溉段別總計一八二町歩ニシテ内七箇所ハ灌溉期間即チ五月ヨリ九月頃迄ノ利用ニ止マレルモ他ハ灌溉期間ノミナラス製材用ニ利用セラレルヲ以テ流水ノ引用絶ユルコトナシ然レトモ大野村ヨリ下流綾部町ニ至ル間ニハ是等用水ノ關係全クナシ

流木ハ盛ニ行ハレ其ノ數量亦多シ其ノ時期ハ毎年九月

中旬ヨリ翌年五月中旬ニ至ル間ニシテ知井村大字中迄ハ長サ二間ノ丸太材ノ管流ニテ流下シ以下筏幅二間長サ二八間トシテ流送ス然レトモ巨材ハ多ク平屋村迄管流シ同所ニ於テ板材トナシ更ニ之ヲ幅二間長サ一八間ノ筏ニ仕立テテ流送スルヲ普通トス、又栗枕木ノ如キハ概ネ全川ヲ管流ニテ流下シツツアリ何レモ和知驛ニテ陸揚ヲナシ汽

車積トナスモノニシテ其ノ數量左ノ如シ

材種	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
丸太	二二二	三四二	五五二	五七〇	三八一
板	五五四	一一九七	五九五	四三三	二九六
竹	八三〇六二	四八八二四	七六、二五四	七二、九八三	一〇
枕	八八一五	二四三八三	四八三八三	二二、六八三	六九、二二
管					一八三、七四

備考 丸太、板、一乗平均六〇〇才、板、二〇〇才、東ニシテ一束ハ約二坪ナリ

漁業ハ六月ヨリ十一月迄ノ間ニ於テ鮎ノ産多シ、舟揖惡水等ナシ

和知川水力地點表

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	水路	流域	發電	年平均	等級
(一〇三)	和知川	一	京都府北桑田郡大野村、藤生、唐尾	同、江和、知井村、向山	湯水 二四 低水 六〇 平水 一〇四	* 二二〇	五八六 一四六五 二、五四〇	二、〇七〇	六、四	一〇〇〇 九三三 八〇三	一、三六七 二、〇八〇	甲
(一〇四)	同	番外	京都府北桑田郡大野村、大野飛谷	同、大野村、檜原	湯水 七八 低水 一九三 平水 三三九	* 九〇	七一九 一九二八 三、三八七	二、六〇〇	一、九三三	一〇〇〇 九三三 八〇三	一、七九九 二、七二〇	乙

水力地點ノ説明

順位一、〇一三 佐々里川、若生川合流點ノ下流ヲ利用セ

高メテ左岸ニ引入レ隧道延長約五五〇間、開渠延長約一、五

二〇間トス、灌漑用水三箇所二三町歩ニ對シ水量四個ヲ分水スルノ要アリ、貯水池若ハ調整池ハ取入口ニ於テ設置シ得ヘキ餘地アリ(京都電燈株式會社ニ許可)

順位一、〇一四 取入口ノ水位ヲ約一〇尺高メテ右岸ニ取入レ開渠延長約六〇〇間、隧道延長二、〇〇〇間ヲ開鑿ス以上二地點トモ流水盛ナルヲ以テ利用ノ際ハ適當ナル方法ヲ講シ之カ流下ニ便ナラシムルヲ要ス

第八章 圓山川水系 矢田川水系

第一節 概説

由良川流域ノ西ニ位シ但馬五郡ニ跨リ面積一〇二方里ヲ占ムル地域ノ總稱ニシテ矢田川ハ其ノ西部ニ位シ圓山川ハ由良川トノ中間ニ介在シテ全面積ノ約八割ヲ占ム
流域ノ西南播磨、因幡、但馬ノ國界ニ立テル氷山(一、五一〇米)ヲ中心高地トシ之ヨリ山脈四方ニ分岐シ附近ニ稍急峻ナル山地ヲ形成ス、一ハ鉢伏山(二、二二一)米、陣鉢山ノ連嶺トナリテ矢田川ノ水源ヲ擁シ其ノ餘勢ハ北ニ走リテ矢田川流域ノ東西ヲ劃ス一ハ分レテ東方ニ走リ圓山川ノ左岸支

本川ニ於ケル許可水力地點ハ四地點ニシテ若生ヨリ島ノ間ニ京都電燈株式會社ノ地點二、高屋川合流點前後ノ屈曲部ニ竹田文吉ノ地點一、下流戸奈瀬附近ニ京都電燈株式會社ノ地點一アリ、何レモ工事未著手ナリ

四、水力地點 選定水力地點數二、其ノ平水時ニ於ケル馬力數五、九二七ニシテ其ノ一箇地點ハ本調査期間中ニ於テ水利使用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來利用開發シ得ヘキモノハ一地點三、二八七馬力ニ過キス。今之ニ許可水力地點支流ノ地點ヲ含マスヲ加算スルトキハ本川ニ於ケル總水力地點數五、其ノ馬力數八、七八九ヲ算ス

流ナル八木大屋ノ二川流域ヲ形成シ一ハ東南ニ連互シテ中國山脈トナリ播磨、但馬ノ國界ヲナス、而シテ中國山脈ハ漸次東南ニ向ツテ其ノ高サヲ減シ播但鐵道ノ横キル生野峠附近ニ於テハ海拔三二〇米ニ過キス、又圓山川流域ノ東部ヲ劃スル山脈ハ即チ丹波、丹後ノ國界ニシテ高サ概シテ低ク其ノ水ヲ集ムル支流出石川ハ水源甚タ淺薄ナリ。圓山川ハ生野峠ヨリ發源シテ北方ニ流下シ大屋川、八木川ヲ中流ニ、出石川ヲ下流ニ合セ日本海ニ注クモノニシテ流路約一九里ナリ。圓山川及出石川ハ上流ヨリ極メテ緩傾斜ヲナシ谷開ケ田野展開スルモ八木川、大屋川及矢田川流域ハ稍急峻ナル連嶺ヲナシ平野少シ

第二節 大屋川、八木川

一、流域 地形及地質 大屋川及八木川ハ圓山川ノ中流部ニ於テ左岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ養父郡ノ大部ヲ占メ其ノ形東西ニ長ク菱形ヲナス其ノ一角ハ東ニ向ヒ其ノ對角ハ播磨、因幡、但馬ノ國界附近ニアリテ氷山ヲ崛起シ其ノ二角ヲ連ヌル連嶺ハ即チ二川ノ水界ヲナス大屋川(一、五一)四方里ハ其ノ南ニ位シ地勢西ヨリ南ニ高峯ヲ繞ラン附近ノ山勢極メテ急峻ナルモ他ハ概シテ緩ナリ